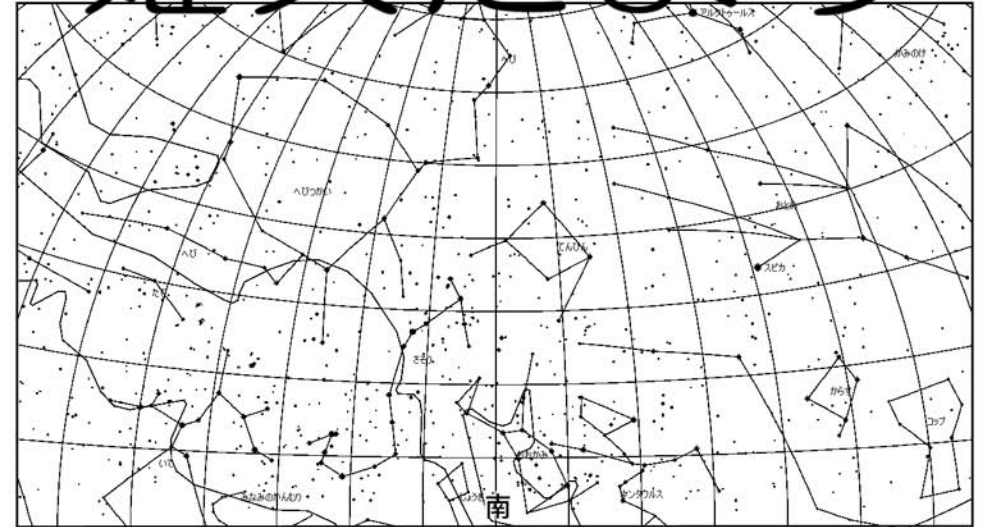


姫天だより

★今月のテーマ 夏の星座教室（星祭り）

「七夕？もう終わったんじゃないの」と思われるでしょうが、今年の旧暦の七夕は8月4日なんですよ、姫治天文クラブでは情緒性や風情を感じてもらいたいので毎年旧暦七夕前の土曜日に七夕の星を観る会を行っています。

物語の作られた時代に双眼鏡や望遠鏡があったら、私はきっと二人と言われている子供の人数はもっと増えていたと思うのですが、織姫さんが連れている子供の星、あなたは何人に見えますか？そんなふうと言われると、あなたも望遠鏡で見たくなってきたんじゃないありませんか？ぜひ私たちと一緒に、姫路公民館屋上の望遠鏡で観察してみましょう。



7月15日午後8時の南の空

7
月号
2022

★今月の星座 てんびん座

今月は星占いに出てくる星座、“てんびん座”を紹介しましょう。7月上旬の午後8時ごろに真南の空地地平線から35度あたりにひらがなの“く”の字を鏡に映し左右裏返した形に3つの星が輝いています。これが黄道12宮7番目の“てんびん座”です。しかし、主な3つの星は3等星のため可児市の空で見つけるのは難しいかもしれません。南の空は春日井市や小牧市、名古屋といった大都会の街明かりによる光害で、夜空が明るくなっているからです。てんびん座を直接見つけるのではなく、おとめ座と皆さんも良く知っているさそり座の間を探すほうが、星座の位置は分かりやすいかもしれません。

星座のお話は、おとめ座の正義の女神アストラエアが手にする、人間の運命や正邪をはかたててんびんだと言われています。しかし、星の並びから星座絵のてんびんを創造することは困難でしょう。なぜなら、もとはさそり座のはさみの星として考えられていたようで、てんびん座として見られるようになったのは紀元前1世紀ごろで、この星座の中に秋分点があり昼夜を2分していたことによると言われています。その理由はてんびん座のα星はズベン・エル・ゲヌビの名があり「南の爪」という意味で、β星はズベン・エス・カマリの名で「北の爪」という意味があるからです。

ということは、やはりさそり座の星からハサミの星として探すほうが、見つけやすいのかもしれませんがね。

-次回の天文クラブ-

●7月の星を見る会

7月30日(土)午後8時より
旧暦七夕のお話
夏の星空教室

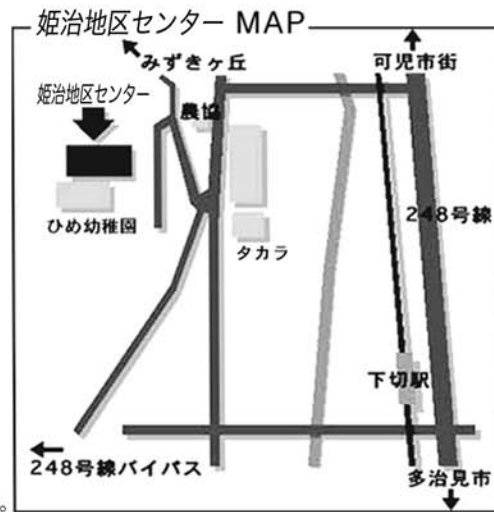
●8月の星を見る会

8月27日(土)午後8時より
土星の観察

※観察時は冷えますので暖かい格好で来てください。

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分
2022年7月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで